

不安定、不確実、リスクの世界に 対応したビジネス・パフォーマンス管理の 7つの機能



目次

- 2 はじめに
- 2 ビジネス・パフォーマンス管理ソリューションが提供する7つの機能
- 7 中心的な役割を果たすスピーディーな OLAP エンジン
- 7 アナリティクスの活用シナリオ
- 8 結論
- 8 IBM Analytics について

はじめに

不安定化し、不確実性とリスクが発生するグローバルのビジネス環境においては、企業意思決定のスピードと精度を改善する必要があります。企業は、不測の事態に迅速に対応できる俊敏性を必要としています。競合上の優位性はすぐに失われるため、ビジネス・チャンスが出現した時点で即座にチャンスをつかまなければなりません。しかしながら、あらゆるビジネス領域で財務リスクと業務リスクの懸念が高まるなか、経営者は慎重に判断することも必要です。重要な問いに対する回答を見つけるには、将来と過去を見据え、社内外のデータを検証しなければなりません。実施可能な戦略とアクションに関するリスクとメリットを評価するには、社内外のデータ・ソースを活用し、人間とマシンが提供できるすべての洞察に基づいて将来のビジネス・シナリオを構築する必要があります。

しかし、ほとんどの財務部門はデータ分析の前にデータの収集・集計・検証など、スプレッドシートを使った手作業のプロセスに膨大な時間を費やしています。このため、経営者が必要とする計画、予算、業績予測、レポート、付加価値の分析を財務担当者がタイムリーに提供できないことがよくあります。したがって、先進的な企業は経営環境に影響を及ぼす未知の動きを予測し対応できるよう、スピード、俊敏性、先見性を改善するための機能に投資し始めています。

業務上の戦術と市場状況に関連付けられた企業目標に対して常に財務計画と予算を連携させられるような、俊敏性を提供するシステムが求められています。これを実現する単一のソリューションこそ、IBM® Planning Analytics なのです。

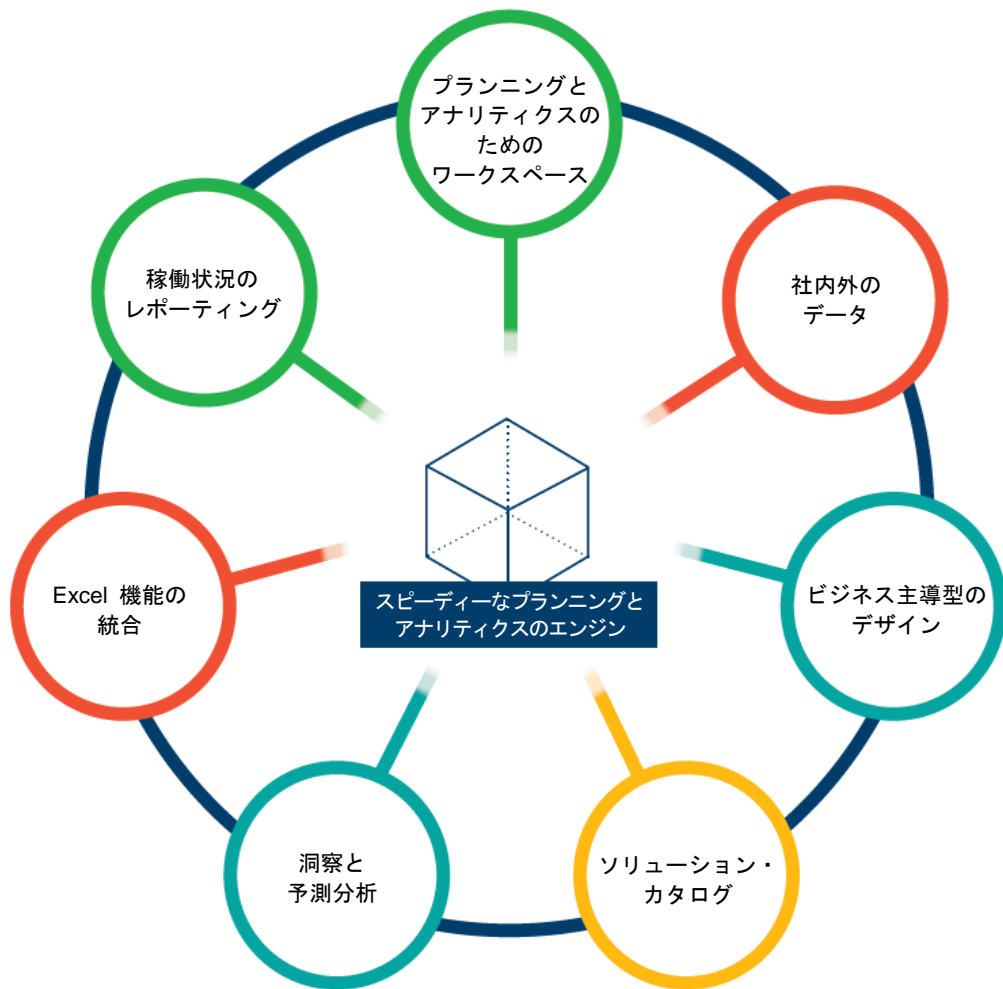
ビジネス・パフォーマンス管理ソリューションが提供する 7 つの機能

IBM Planning Analytics とは、効率を高め、俊敏性を改善し、より効果的な洞察を提供するための柔軟かつ包括的な機能に加えて、ビジネスのセルフサービス機能と迅速な展開を実現する、強力なソリューションです。IBM TM1® を搭載した本ソリューションを導入すると、まず手作業によるプランニング、予算策定、および業績予測のプロセスを自動化することで、サイクル・タイムをスピードアップし、スタッフの生産性を改善できます。ビジネス・ドライバーに関する動的なモデルに基づいて業務上の戦術を財務計画に連携させることで、ビジネス部門が変化する市場環境に対応することを実現します。財務データと業務データから自動的に予測に役立つ洞察を導き出し、その洞察を信頼性の高い計画、分析、業績予測に組み込むことで、全社的によりスマートでスピーディーな意思決定を行うことができます。

クラウド、オンプレミス、ハイブリッドの環境で展開可能な IBM Planning Analytics は、単一のソリューション内に 7 つの主要なビジネス・パフォーマンス管理機能を包含しています。

1. プランニングとアナリティクスのためのカスタマイズ可能なワークスペース
2. データ統合の自動化による社内外のデータへのアクセス
3. ビジネス主導型のプランニング、分析、スコアカードのデザイン
4. 迅速なソリューション導入を実現し ROI を改善する、事前に構築された IBM Quick Start Templates のソリューション・カタログ
5. IBM Watson Analytics によるデータ・ディスカバリーと予測分析
6. Microsoft Excel インターフェースの統合による導入のスピードアップと既存スキルの活用
7. 信頼性の高いビジネス・インテリジェンス・アプリケーションによる稼働状況のレポートニング

この 7 つの機能を 1 つずつ見ていきましょう。



1. プランニングとアナリティクスのための カスタマイズ可能なワークスペース

IBM Planning Analytics は、すべてのコスト・センターのオーナーとビジネス部門のマネージャーに提供可能な、対話型でカスタマイズ可能なワークスペースです。このワークスペースは KPI に関する一貫性のある単一のビューを提供するため、ユーザーはアクションを実施する前にパフォーマンスの測定と監視を行い、プランを評価し、差異を特定し、原因を診断し、シナリオのインパクトをテストすることができます。

ユーザーは使い慣れたスプレッドシートのワークブック形式を使用して、グラフィカルな可視化機能とのインターフェースをカスタマイズできます。ビジネスの仮説とシナリオをテストし、別のアクションを実施することによる財務上のインパクトをすぐに確認できます。効率的なデータ抽出を実施することで、共通のビジネス用語を使用して簡単に分析とレポートの作成を行うことができます。

パワー・ユーザーは、あらゆる階層と管理軸を組み合わせてデータを分析する高度な多次元分析を実施できます。また、専門家でなくても、分析やレポートをより迅速に作成し、提供することができます。

作業グループ間でダッシュボードを共有できます。標準のソーシャル・コラボレーション・ツールを活用することで、チームは数時間から数日かけて電話会議やミーティングを設定することなく重要な意思決定について討議することができます。オフィスにいるときも、出先にいるときも、モバイル・デバイスとデスクトップ・デバイスからビジネス・パフォーマンス管理情報にアクセスできます。KPI の堅牢なフレームワークに基づくスコアカードをビジネスの現場レベルにまで落とし込むことができるため、業務に関する意思決定を企業目標と連携させ、戦略を確実に実行できます。



図 1: 標準のコラボレーション機能がユーザーに働きかけ、連携と実行を促進します。

2. 社内外のデータへのアクセス

IBM Planning Analytics を使用すると、ビジネス・アナリスト、財務アナリスト、ビジネス部門のマネージャーなどのユーザーはさまざまな社内外のデータ・ソースのデータを探索し、分析することができます。ユーザーがアクセスできるのは、エンタープライズ・リソース・プランニング (ERP) アプリケーション、総勘定元帳 (GL)、ビジネス・インテリジェンス (BI) のソースに加え、急速に成長する「Internet of Things (IoT)」が提供する天候データ、計量経済学データ、ソーシャル・メディアの非構造化コンテンツ、センサー・データに関する情報が含まれます。

IBM Planning Analytics を通じて企業は情報と洞察をビジネス現場の担当者に提供でき、担当者は迅速かつインテリジェントにリソースの割り当てを決定できるようになります。

例えば、マーケティング・チームはお客様による情報の検索方法と購入方法の変化に対応するために、プロモーションへの投資を調整しなければならないことがあります。営業部門はお客様に最も近いポイントで最新の営業予測データを収集し、その後計画を修正し、この計画を収益予測の修正に反映しなくてはならないことがあります。さらに、スタッフの退職や採用が行われた時点で、コスト・センターのマネージャーはスタッフに関する意思決定を行い、報酬計画を調整する必要があります。IBM Planning Analytics を導入すると、このようなリソースの割り当てに関する意思決定のすべてを企業目標と緊密に連携させ、市場状況と合致させることができます。

さらに、IBM Cognos[®] Command Center と IBM Cognos Integration Server の補完的な機能により、IBM Planning Analytics は基本的な財務業績の管理プロセスで活用できるデータ、メタデータ、およびセキュリティーのプロファイルを抽出することができます。ユーザーは、IBM TM1、Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management、SAP BW などのよく使用される財務データ・ソースから特別なキューブ・データを取得できます。しかも、この機能を実現するにあたって、コンプライアンス・リスクを発生させ、IT 部門のリソースに負担をかけるカスタムのデータ統合を行う必要はありません。

IBM Planning Analytics は社内外のデータにアクセスし、予測アナリティクスを適用することで、ビジネス・ドライバーに影響を及ぼす要因に関する洞察を抽出することができます。その後、このドライバーを財務計画と連携する業務上の戦術に反映することができます。

3. ビジネス主導型のアプリケーション・デザイン

IBM Planning Analytics によりセルフサービス形式のモデル・ベースのアプローチを活用することで、それぞれの財務アナリストとビジネス・アナリストは、自分で新規のアプリケーションとスコアカードの作成と配布を行うことができます。

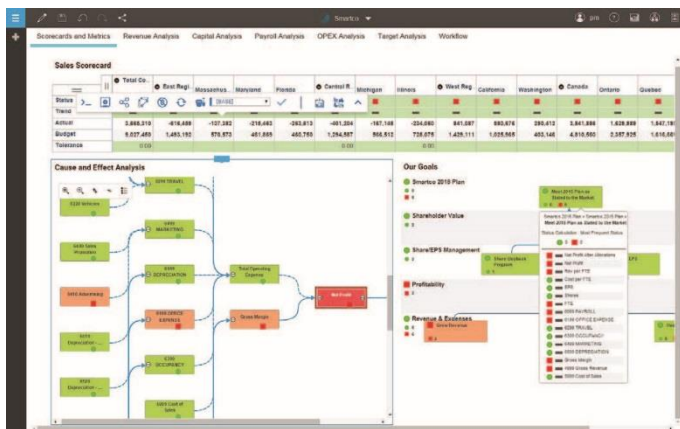


図 2: ビジネス主導型のプランニング、分析、スコアカードのデザインを通じて、IT 部門への依存を減らすことができます。

従来においては、プランニングのモデルは専門的なスキルを持つ「パワー・ユーザー」が中心となって構築および管理してきました。その後、モデルはプランニング、予算策定、および業績予測のプロセスの一環としてコスト・センターに提供されました。IBM Planning Analytics はモデルの開発に関する従来のアプローチと最新のビジネス部門のユーザー主導のアプローチの両方を実現します。後者のアプローチでは、必要に応じてモデリング機能は組織内でさまざまな部門（財務部門とその他の機能領域を含む）に分散します。例えば、企業のコール・センターでは、寄せられる問い合わせ量の予測はコール・センターの人員計画と関連付けられます。また、マーケティング部門では、プロモーションの計画とキャンペーンの計画を連携させることができます。

4. アクセラレーターとソリューション・カタログ

IBM Planning Analytics を導入すると、事前に構築された IBM Quick Start Templates による広範なソリューション・カタログも活用できます。このテンプレートはデータ、プロセス、業務ロジックに関して事前に構築されたモデルであり、一連の部門のプランニング活動と業界特有のプランニング活動で利用できます。利用可能なテンプレートには、経費計画、収益性分析、利益率計画などがあります。このようなテンプレートは、IBM の専門家、IBM のビジネス・パートナー、および先進的な IBM のお客様が開発したプランニングとパフォーマンス管理に関する実績のあるベストプラクティスに基づいています。このテンプレートは企業によるプランニングのスピーディーな展開とより迅速な価値創出を支援しながら、企業の俊敏性を高めます。

5. 洞察と予測分析

IBM Planning Analytics の最も大きなメリットとは、コグニティブ・コンピューティングのパワーをビジネス・パフォーマンス管理に適用できることと言えます。それが可能なのは、IBM Watson Analytics の先進的なセルフサービス形式のデータ・ディスカバリー機能と予測機能を組み込んでいるためです。

迅速なデータ・ディスカバリーを実現する自然言語のインターフェースを持つ Watson Analytics は、自動化された予測アナリティクス機能と統合された可視化機能に加え、共通のビジネス用語に基づくガイド型のデータ探索機能を実現します。Watson Analytics が提供する統計データの分析、関連付け、予測を活用すると、主要なビジネス・ドライバーに影響を及ぼす要因を明確に把握することができます。これから発生する可能性のある事象を見極め、より効果的に対応を検討することができます。ユーザーはデータからこれまでになかった洞察を自動的に導き出し、この洞察を計画、分析、レポートに適用できます。

データの準備、精緻化、管理、および分析のすべてを自動化できるため、簡単にデータを処理し、信頼できる分析結果を得ることができます。Watson Analytics はプランの情報源となるビジネス・ドライバーに関するこれまでになかった洞察を提供し、ユーザーは業績予測を評価し、改善することができます。さらに、可視化機能を通じてユーザーはこのような洞察を配信し、明確で説得力のある可視化表現によって重要な情報を示すことができます。

Watson Analytics を導入すると、考えもしなかった問いに対する答えを見つけることができるようになります。

6. Excel 機能の統合

スプレッドシートには機能制限があるものの、これまで開発されたソフトウェア・ツールの中で最もよく使用されるものの1つです。IBM Planning Analytics では、ユーザーは使い慣れたスプレッドシートのツールと手法を活用してデータの探索と分析を行うことができます。IBM Planning Analytics のモデルと Excel のスプレッドシートの間でデータの移行を行いながら、包括的な Microsoft Excel の機能と形式 (グラフ作成機能と組み込まれた関数を含む) を活用できます。

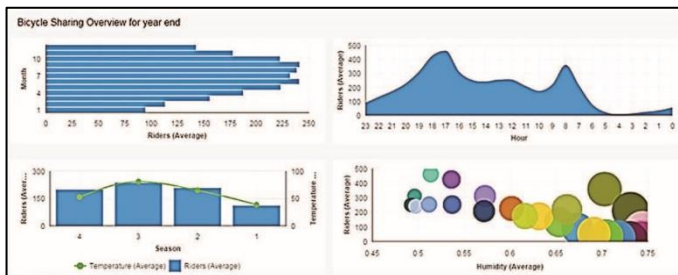


図 3: Watson Analytics で作成した可視化機能によって、ユーザーはより効果的に洞察を共有し、配信することができます。

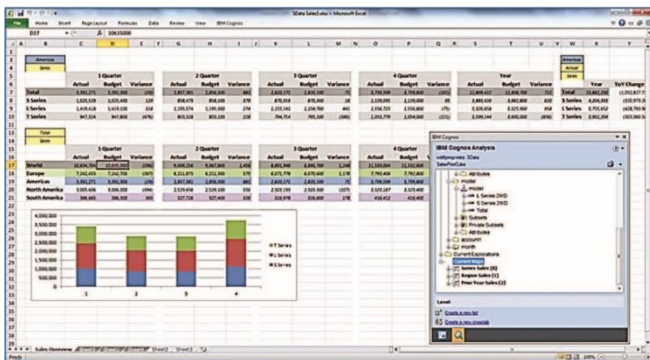


図 4: ユーザーは使い慣れたスプレッドシートのツールと手法を活用して、柔軟な分析を実行できます。

財務担当者は最新のプランニングとアナリティクスのソリューションが提供するあらゆる機能を活用したうえで、必要に応じて従来通り Excel のインターフェースを活用できます。ビジネス・アナリストやビジネス部門のマネージャーなども、使い慣れたスプレッドシートの形式による多次元のプランニング・モデルやアナリティクス・モデルから提供されるデータの探索と分析を行うことで、より迅速で正確な意思決定を行うことができます。

7. 稼働状況のレポートニング

IBM Planning Analytics は包括的なビジネス・インテリジェンスのレポートニング機能を提供するため、ビジネス部門のユーザーは自分の役割と機能に基づいてパフォーマンスの測定と監視を行った後、レポートを作成し、全社的に共有することができます。ユーザーはすべての適切なデータ・ソースからの情報を参照して、すべての適切な人にあらゆる適切な形式のレポートを簡単に配布できます。また、企業目標や企業予算と連携するスコアカードに加え、役割別のダッシュボードとオペレーショナル・ダッシュボードの開発と展開を行うことができます。レポートニングを通じてイニシアチブ、リソース、アクションの連携の進捗をトラッキングすることで、戦略の実行を改善することができます。

中心的な機能: IBM TM1 による高スピードなインメモリ・エンジン

IBM TM1 による強力なインメモリ・オンライン分析処理 (OLAP) エンジンを搭載した IBM Planning Analytics は、過去および将来のビジネスを示す大量のデータに対して多次元分析を行います。本製品は、世界中の数千社の企業が導入しています。複数のデータ・ソースを統合し、あらゆる関連システムの情報の比較分析を行うことができます。

IBM Planning Analytics を使って、財務部門とビジネス部門のユーザーは、製品と顧客の収益性、売上の内訳、価格と販売数の差異などに関する複雑な多次元計算と多次元分析を実行できます。ユーザーは全社的なプランに製品の階層、企業構造、ビジネス・ルール、およびリレーションシップを反映するモデルを構築できます。その後、組織変更、買収や合併、新規のビジネス要件に基づいてこのような階層、構造、ルール、リレーションシップが変化すると、迅速にモデルを調整できます。

本ソリューションの高度なモデリング機能を活用することによって、財務部門は信頼性が高く対話型の計画、分析、および業績予測を作成し、組織全体でのプランニング・プロセスを通じて、業務上のドライバーと財務への影響因子を関連付けることができます。

アナリティクスの活用シナリオ

実際のビジネス環境において、このような新規の分析機能はデータから洞察を抽出することでビジネスに関する先見性を高め、よりスマートな意思決定を可能にします。

ある財務部門が、キャッシュフローを改善するために売掛金の回収期間を短縮するイニシアチブを開始したいとします。IBM Planning Analytics を使用して、担当者は顧客 ID、請求金額、問題のステータス、請求書タイプ（ペーパーレスなど）、支払いの遅延日数などの請求レコードを含む売掛金データをアップロードすることができました。IBM Planning Analytics は自動的にデータの品質をチェックすることで、データが統計分析に適していることを確認します。その後、分析を実行することで、支払いの遅延に影響を及ぼす要因や支払いの遅延を予測する要因を検出します。このような要因を特定しさらに分析を行うことで、さまざまな影響を及ぼす要因（紙ベースや電子ベースなどの請求書タイプを含む）に対して実施可能な変更や改善を見つけ出すことができます。その後、このイニシアチブのインパクトは、更新されたバランスシートやキャッシュフローの予測に表れます。



図 5: 予測アナリティクスにより顧客の行動に影響を及ぼす要件を特定できます。

営業案件の成功と失敗のデータに関する別の例が挙げられます。データの品質をチェック後、システムが自動的に案件の成功と失敗に関する予測要因を検出します。レポート・ビジネスにおける顧客満足度や、従業員の効率が要因であるかもしれません。その後、本ソリューションが履歴データに基づいて案件の成功と失敗の予測を行い、より正確なベースラインの売上予測を実現するための情報を提供します。

結論

不安定化し、不確実性とリスクが高まる今日の環境でビジネスを成功に導くには、企業の上層部と現場部門のみならず、部門間においても、プランニングがコア・コンピテンシーとなる必要があります。

このようなタスクを実行するソフトウェアである **IBM Planning Analytics** は、予測分析、ビジネス部門のユーザーによるモデリング、レポート、コラボレーションのすべてを実現するユニークなソリューションです。社内のすべての人の能力を高めることで、分析とプランニングにより大きな責任を果たし、隠れたビジネス・チャンスとリスクを発見し、よりインテリジェントな選択を行い、より効果的にリソースを配分できるようにし、売上高と収益性の増大を実現します。

アナリティクスについて妥協する必要はありません。**IBM Planning Analytics** は、お客様が不確実な未来に対応するための柔軟かつ包括的な機能に加えて、お客様にとって必須のセルフサービス形式の迅速な展開環境を提供します。

IBM Analytics について

IBM Analytics ソフトウェアはデータに基づく洞察を提供するため、企業はよりスマートな業務を実現し、同業他社を凌駕することができます。この包括的なポートフォリオには、ビジネス・インテリジェンス、予測アナリティクスと意思決定管理、パフォーマンス管理、およびリスク管理のソリューションが含まれています。

IBM Analytics ソリューションを導入すると、企業はビジネス業績に重大に影響を及ぼす可能性がある領域（顧客分析など）のトレンドとパターンを検出し、可視化することができます。このようなソリューションはシナリオを比較し、潜在的な脅威とビジネス・チャンスを予測し、リソースの計画・予算策定・予測を改善し、リスクと期待される利益のバランスを取り、規制に基づく要件に対応することができます。アナリティクスを幅広く活用する企業は戦術的な意思決定と戦略的な意思決定を連携させることによって、ビジネス上の目標を達成できます。詳細情報については、ibm.com/analytics/jp/ja をご参照ください。

お問い合わせ先

IBM の担当者からのお電話が必要な場合や質問がある場合は、ibm.com/analytics/jp/ja からお問い合わせください。**IBM** の担当者からは、お客様からお問い合わせをいただいてから 2 営業日以内に回答を差し上げます。



© Copyright IBM Corporation 2016

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

Produced in Japan
2016 年 10 月

IBM、IBM ロゴ、Cognos、TM1 および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Microsoft および Microsoft Excel は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。

すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なものではありません。本書に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。



Please Recycle
